

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル  
電話/FAX：03-5740-9505 e-mail：最後のページ参照  
日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

## 日本教育工学会 第25回全国大会のお知らせ（第四報）

大会Webページ：<http://www.jset.gr.jp/taikai25/>

日本教育工学会第25回全国大会を、下記のように東京大学（本郷キャンパス）において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募下さい。

### 1. 開催期日・会場

期日：2009年9月19日（土）～21日（月）（3日間）

会場：東京大学（本郷キャンパス）〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

○都営大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩7分 ○東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅 徒歩8分

○東京メトロ千代田線 湯島駅 徒歩20分 ○東京メトロ南北線 東大前駅 徒歩10分

[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html)

後援：文部科学省（予定），東京都教育委員会（予定）

### 2. 大会日程

第1日 9月19日（土）	第2日 9月20日（日）	第3日 9月21日（月）
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食、各種委員会	12:30～14:00 昼食・理事会	12:30～14:00 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:50～17:50 一般研究発表2	14:45～17:30 シンポジウム2	14:00～16:30 課題研究発表
18:00～19:30 ワークショップ	18:00～20:00 懇親会	
9:30～17:50 企業展示	9:00～14:30 企業展示	

\*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。19,20日には、展示会も開催されますので、ぜひ見学にお立ち寄り下さい。

#### 本号目次

全国大会のお知らせ（第四報）	1	論文誌特集号のご案内（第二報）	14
夏の合宿研究会のご案内（最終報）	10	理事会議事録	15
研究会の開催案内／発表募集／報告	11	学会日誌等	16

### 3. 各セッションについて

#### (1) シンポジウム

##### シンポジウム1

###### シンポジウム1A

新学習指導要領のスタートに向けて、「教育の情報化」のために教育工学は何をすべきか

コーディネータ（五十音順，以下同様）：野中陽一（横浜国立大学），東原義訓（信州大学）

パネリスト：黒上晴夫（関西大学），中沢淳一（文部科学省），永野和男（聖心女子大学），  
藤森裕治（信州大学）

学習指導要領の改訂に合わせ，これまでの「情報教育に関する手引」が「教育の情報化に関する手引」となって平成21年3月に公表された．新学習指導要領及びその解説の記述において，教科指導におけるICT活用や情報教育，情報モラルの育成など，教育の情報化に関わる内容について一層の充実が図られていることは，「教育の情報化」の各要素が「教育の質の向上」において重要な位置付けにあることを示している．本シンポジウムでは，この「学習指導要領における教育の情報化」を踏まえた上で，諸外国と比較して，普及がなかなか進まない我が国の「教育の情報化」のために，教育工学は何をすべきか，何ができるのか，異なる立場のパネリストと参加者によって議論を深めたい．

##### シンポジウム1B

ICTを利用した教育・学習システムの目標設定と評価法

ー研究の「モザイク」から「るつぼ」への発展を目指してー

コーディネータ：柏原昭博（電気通信大学），平嶋宗（広島大学），室田真男（東京工業大学）

登壇者：大谷 尚（名古屋大学），緒方広明（徳島大学），久保田賢一（関西大学），  
向後千春（早稲田大学）

ICTを利用した教育・学習システム研究は，教育・学習という同一の現象を対象とはしているものの，そのアプローチやゴール設定は多様である．従って，それらの成果を広く共有することは必ずしも簡単ではなかった．例えば，主眼点が教育的実践である場合，技術的な新規性や有効性である場合，心理学的な妥当性や検証である場合では，研究の目標設定と評価法は異なっており，立場を超えた成果の活用は十分には行われていない．それぞれの立場からの研究がある程度成熟を迎えた今日，それらの研究成果を融合してゆく役割を教育工学に求められ始めている．本シンポジウムでは，このような研究の「モザイク」から「るつぼ」への一つの端緒となることを目指して，教育・学習システム研究のいくつかの立場から，ゴール設定とその評価法について議論を深めたい．

##### シンポジウム2

変革をささえる教育工学：サステイナビリティとスケーラビリティ

コーディネータ：中原淳（東京大学）

登壇者：木原俊行（大阪教育大学），佐藤浩章（愛媛大学），堀田龍也（玉川大学），  
松下佳代（京都大学）

コメンテーター：長岡 健（産業能率大学），松尾 睦（神戸大学）

教育工学研究は，教育現場の変革に資することをめざす「実践志向」の学問である．「実践志向」の意味するところは様々な解釈が可能であるが，近年の学習研究で注目されている問題のいくつかは，サステイナビリティ（sustainability：持続可能性）とスケーラビリティ（scalability：普及性）の問題がある．サステイナビリティとは，ある現場で試みられた変革が，外部からの介入をなくしても，自律的に維持されうることである．対して，スケーラビリティとは，ある現場で実施された変革が，他の現場に普及することである．教育工学が「実践志向の学」であることを標榜するならば，これらの問題にいかに向き合うべきなのか．本シンポジウムでは，初等中等教育，高等教育から各2つずつ研究事例を報告していただきつつ，会場の参加者をまじえて議論したい．

## (2) 課題研究

本大会では公募で寄せられたテーマを含めて大会企画委員会で検討した結果、次の8件のテーマを予定することになりました。プロポーザルの提出締切は6月25日です。大会企画委員会が発表の可否を決定いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご留意下さい。

なお、趣旨文等は、大会Webページをご覧ください。

- K-1 新しい技術・メディアを活用した教育支援システム：未来の学習環境のデザインとチャレンジ  
コーディネータ：緒方広明（徳島大学）、竹中真希子（大分大学）
- K-2 協調学習を支援するシステム・実践のデザイン  
コーディネータ：大島 純（静岡大学）、加藤 浩（放送大学）
- K-3 ゲーム・シミュレーションを利用した教育：現状とこれから  
コーディネータ：栗山 健（学習研究社）、清水悦幸（内田洋行）、山田政寛（金沢大学）
- K-4 授業研究と教師の力量形成  
コーディネータ：柴田好章（名古屋大学）、田中博之（早稲田大学）、  
南部昌敏（上越教育大学）
- K-5 学校のICT化を推進する人的環境  
コーディネータ：中川一史（放送大学）、野中陽一（横浜国立大学）
- K-6 eポートフォリオ初等教育から高等教育までー  
コーディネータ：小川賀代（日本女子大学）、永田智子（兵庫教育大学）
- K-7 新学習指導要領における情報教育とICT活用  
コーディネータ：小泉カエ（尚美学園大学）、高橋 純（富山大学）
- K-8 高等教育・FDにおける教育工学の役割  
コーディネータ：石川 真（上越教育大学）、森田裕介（早稲田大学）

## (3) 一般研究（口頭発表・ポスター発表）

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申し込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。

なお、一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が申込時に選択できます。ポスター発表者は、発表セッションの定められた時間帯に、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

- (1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育 I（情報活用能力の育成等） (3) 情報教育 II（教科指導等）  
(4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育  
(8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育  
における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・  
遠隔学習 (16) 認知モデルと知的学習支援システム (17) インターネットを利用した授業実践  
(18) 教育メディア (19) e-Learning（システム） (20) e-Learning（運用・評価） (21) 協調学習と  
協調作業 (22) ワークショップ (23) その他

## (4) International Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

## (5) ワークショップ

本大会では新たな試みとしてワークショップを実行委員会が中心となって開催します。このワークショップは、参加者が設定したテーマについてインフォーマルに語りあう場です。実践は進んでいるものの研究として認識されていない問題や、新しい情報技術の教育利用などの萌芽的な研究について議論を行っていただくことを考えております。ワークショップは参加者主導で進めていただきます。時間（1時間30分）の使い方は参加者にまかされます。予稿の用意は必要ありません。

テーマは公募といたします。大会実行委員会では5～10件程度を想定していますが、会場の関係上応募多数の場合は調整させていただくことがございますのであらかじめご了承ください。議論を通じて、教育工学に関心を持つコミュニティが作られ、発展していくことを期待しています。積極的なご応募をお

待ちしております。

応募のスケジュール：

6月 1日～30日 ワークショップ テーマ受付期間

7月14日 ワークショップ テーマ決定（応募多数の場合、採否結果通知を致します）

応募方法・応募先：

電子メールにて、ワークショップ主催者の氏名、ご所属、メールアドレス、ワークショップ名と概要（300字程度）を日本教育工学会第25回全国大会実行委員会事務局（jset-conf@altut.org）までお送り下さい。

なお、件名は「ワークショップ応募」として下さい。

#### 4. 発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明10分、研究発表各15分、総合討論1時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表10分、質疑応答4分

※ 例年より一般研究の口頭発表の発表時間が短くなっています

<ポスター発表>1セッション（在席責任時間は60分）

[International Session] 発表13分、質疑応答5分

#### 5. 大会までのスケジュール

6月25日	木	課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切
6月30日	火	ワークショップテーマ受付締切
7月 9日	木	課題研究発表の採否決定通知
7月16日	木	発表者の参加費事前送金締切（郵便振り込みの場合）
7月23日	木	発表者の参加費事前送金締切（クレジットカード払いの場合） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）提出 一般研究発表／International Session申込書・原稿（2ページ）提出 ※17:00が最終締切時刻となります。原稿の差し替えは、7月28日17時まではWeb上で可能です。（電子メールによる差し替えは認められません）。
7月28日	火	提出原稿の差し替え締切（17時厳守。以降の原稿の提出は一切受け付けません。）
8月20日	木	発表者以外参加費等事前送金期限（郵便振り込みの場合）（以降の送金をご遠慮下さい）
8月27日	木	発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード払いの場合）（以降の送金をご遠慮下さい）

#### 6. 大会への発表申し込み等

##### (1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。
- ・発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、[発表者]には、事前に、大会参加費を送金していただくことになっております。ご注意ください。発表原稿送付時に、JSET大会ホームページ（<http://www.jset.gr.jp/taikai25/>）にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただきますので、その登録時に年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。なお、大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。
- ・維持会員に所属する者は最大3名まで個人会員として加入しなくても発表ができます。これに該当する発表者を事前に登録しますので、7月16日までに学会事務局（office-s@jset.gr.jp）にご連絡下さい。この期限を過ぎた後の受付はできませんので、ご注意ください。

## (2) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似の内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・課題研究は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に一般研究にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

## (3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

### 1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザルを、6月25日(木)17:00までに提出して下さい。
- ・ページ数はA4版2～4ページとします。フォーマットは特に決めておりません。
- ・プロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。具体的なURLならびに詳しい手続きについては、JSET大会ホームページをご覧ください。
- ・課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月9日(木)までに申し込み者に連絡します。

### 2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出して下さい。

- ・A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。JSET大会ホームページに示されている内容に従って作成して下さい。
- ・JSET大会ホームページから、7月23日(木)17:00までに、最終原稿ファイルを送信していただきます。
- ・発表時間の希望には応じられません。

## (4) 一般研究及び International Session の発表申し込み方法

- ・7月23日(木)17:00までに、JSET大会ホームページから原稿ファイルを提出して下さい。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・一般研究とInternational Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。
- ・原稿用紙は送付しません。JSET大会ホームページに示されている指定に従って作成して下さい。
- ・発表日時の希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承下さい。

## (5) CD-ROMの作成について

今大会の論文集から、冊子体のものに加えて、論文本文の文字列検索が可能なCD-ROM (PDFファイル) を作成することになりましたので、ファイル提出時の注意にしたがって提出して下さい。

また、大会原稿の著作権を学会に譲渡いただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

### **【重要】 原稿ファイルの提出に関するお願い。**

今回から、論文集のCD-ROMは、論文本文中の文字列の検索が可能になる方法で作成します。このために、次のご協力をお願いいたします。

**PDF/X-1a形式による提出：**(PDF/X-1a形式の説明は：<http://www.jset.gr.jp/taikai25/>)

PDF/X-1a形式で提出していただきます。また、PDFだけでなく、元ファイル (MS-Word形式や一太郎形式のファイル) も提出していただくことになります。TeXで作成される場合でも、フォントの埋め込み処理が行われていないことがありますので、ソースファイルすべてをひとまとめにして (アーカイブ形式等) で提出していただくことになります。

著者は、JSET大会ホームページに掲載される方法に従ってファイルを作成して下さい。提出していただいたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は、大会企画委員会では一切行いません。

## (6) 発表取り消しについて

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、大会企画委員会 (taikai2009@jset.gr.jp) までご連絡下さい。その場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません (学会から提供する発表リストから削除します)。なお、ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意下さい。

## 7. 大会の参加申し込み及び受付等について

大会に参加を希望される方は以下の手順に従って、申し込みをお願いします。

### (1) 事前送金の場合の参加費等について

事前に参加費等を送金される場合は、以下の金額を、事前支払期限までに送金して下さい。事前支払期限は、発表者の場合、郵便振替の場合は7月16日(木)、クレジットカード支払いの場合は7月23日(木)です。発表者以外の方は、郵便振替の場合は8月20日(木)、クレジットカード支払いの場合は8月27日(木)です。

参加費 正・准・名誉会員	2,500円 (当日は4,000円)
学生会員	1,500円 (当日は3,000円)
非会員	3,000円 (当日は4,000円)
懇親会費	5,000円 (当日は6,000円)
講演論文集代 (CD-ROM付)	6,000円 (当日も6,000円)
講演論文集の送料 (参加されない場合)	1,000円

事前支払期限以降に送金された場合は、当日参加の場合との差額を会場でお支払いいただきます。なお、事前支払期限までに発表者の参加費及び2009年度会費の納入が確認できない場合は、発表は取り消しとなりますので、ご注意下さい。

8月27日(木)までの変更については、返金は致しませんが、送金なされた分を次年度の年会費に振り替えることができます。大会終了後2ヶ月以内に学会事務局 ([office-s@jset.gr.jp](mailto:office-s@jset.gr.jp)) までご連絡下さい。非会員の場合は入会をしていただくことになります。この日以降は、変更を連絡いただいても、原則として返金等ができないことをご了解下さい。

大会参加費と論文集代を事前に送金したけれども、学会事務局に連絡することなく、大会に参加され

なかった場合には、その旨を学会事務局 (office-s@jset.gr.jp) までご連絡下さい。論文集をお送りします(送料は参加費で補填いたします)。ただし、その差額は返金できません。

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は、「准会員」に会員種別が変更されています。学生会員としての特典はありませんので、ご注意下さい。

## (2) 事前の送金と参加登録について

会員と非会員で参加費等が異なります。JSET大会ホームページの「参加申し込み」ページにアクセスして下さい。その画面で、①正会員・准会員・名誉会員の場合、②学生会員の場合、③非会員の場合を選択できますので、それぞれの場合の説明に従って参加登録と送金手続きをお願いします。

また、送金方法として、3つの方法が準備されます。それらは、①クレジットカードによる支払い、②郵便振替、③当日会場で現金で支払いです。

なお、事前に送金をしていただける場合は、クレジットカード支払いと郵便振替のどちらかの方法をご利用下さい。

### ①「クレジットカードによる支払い」の場合

- ・前述の「参加申し込み」ページで、「クレジットカードによる支払い」を選択して下さい。
- ・ただし、その際には学会から発行してご連絡してありますID・パスワードが必要です。パスワードをお忘れになった場合は再発行いたしますので、学会事務局 (office-s@jset.gr.jp) に、電子メールでご連絡下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・なお、学生割引は正規の学生会員に限ります。そのため、登録されている学生会員以外は割引価格では送金できないようになっています。

### ②「郵便振替」の場合

- ・会員が郵便振替で送金される場合も、「参加申し込み」ページで、「郵便振替」を選択して下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。その際表示される金額と送金内容を学会からニューズレターと一緒に送りする郵便振替用紙に記入して、郵便局の窓口から送金して下さい。なお、必ず会員番号をお書き下さい。
- ・学会事務局では入金確認後に、会員データベースに入力します。郵便局の窓口から送金されてから1週間から10日かかりますので、送金日はそれを考慮して下さい。
- ・不足料金がある場合、電子メールアドレスがわかる方にはできるだけ事前に連絡しますが、全員にはご連絡できないことも想定されますので、十分ご注意下さい。

### ③「当日会場で現金で支払い」の場合の事前登録

- ・「当日会場で現金で支払い」の場合でも、参加登録を事前にしていただきますと、会場での受付が非常に簡便になります。
- ・この場合、「参加申し込み」ページで「当日会場で現金で支払い」を選択して下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・登録内容が自動的にメールで送信されますので、それを印刷して当日会場受付にお出し下さい。当日参加票に記入する必要がなくなります。

## (3) 大会受付票等の送付について

事前送金された方々には、大会受付票等を9月上旬までにお送りします(予定)。

- ・クレジットカード支払い、あるいは郵便振替で事前送金された参加者には、9月上旬までに、「大会受付票」「大会参加証(名札用)」「領収書」を電子メールの添付書類でお送りします。
- ・大会当日は、電子メールで送られた「大会受付票」等を印刷してお持ち下さい。
- ・ただし、電子メールアドレスが登録されていない会員には、大会受付票等が送られませんので、当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上、その旨お申し出下さい。

#### (4) 当日の受付について

##### ① 事前送金済みの場合

- ・大会受付の「事前送金済参加者」窓口で、電子メールでお送りした「大会受付票」をお渡し下さい。
- ・大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・印刷して持参していただいた「大会参加証（名札用）」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・大会受付票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしてお入れ下さい。
- ・大会受付票を持参されなかった方は、当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上「事前送金済参加者」窓口にて、その旨、お申し出下さい。
- ・送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合は、「総合受付」でお受けします。

##### ② 当日参加の場合

- ・当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ・ただし、学会ホームページから参加登録を行った会員は、自動送信されたメールを印刷してお持ち下さい。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- ・お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れて下さい。
- ・懇親会費を支払われた場合は、名札にマークを貼らせていただきます。

#### (5) その他

- ・学生割引は本学会の正規の学生会員に限ります。そのため、学生会員以外が割引価格の金額を送金された場合は、差額を申し受けます。
- ・名札ケースは、最終日のお帰りの際に、ご返却下さい。

### 8. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、PCを投影できる設備（プロジェクタ）が利用可能です。口頭発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。OHPあるいはOHCの利用を希望なさる場合は、事前に下記実行委員会にお知らせ下さい。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了して下さい。また、PCから音声を流す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意下さい。

ポスター発表の会場では、幅1メートル・高さ2メートル程度のポスター掲示用パネルを用意します。また、パネル前に長机（高さ70センチメートル程度）を用意しますので、配布資料やデモンストレーション用のパソコン等を置くことが可能です。ポスター発表会場にはインターネットにアクセスできる環境と電源が用意されています。

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学 情報学環・福武ホール 気付  
日本教育工学会第25回全国大会 実行委員会事務局 宛  
電子メールでの問い合わせ先：jset-conf@alutut.org

### 9. 企業の展示について

大会期間中、企業による製品等の展示も行います。出展、ならびに大会プログラム等における広告を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ (tenji@jset.gr.jp) へお問い合わせ下さい。申し込み方法等はJSET大会ホームページをご覧ください。

### 10. 宿泊について

各自で手配願います。

### 11. 大会全般の問い合わせ先

日本教育工学会 大会企画委員会 問い合わせ用電子メールアドレス：taikai2009@jset.gr.jp



### 大会企画委員会

委員長：東原義訓（信州大学）

副委員長（五十音順，以下同様）： 前迫孝憲（大阪大学）， 室田真男（東京工業大学）

幹事：石川 真（上越教育大学）， 森田裕介（早稲田大学）

委員：大島 純（静岡大学）， 緒方広明（徳島大学）， 小川賀代（日本女子大学），

柏原昭博（電気通信大学）， 加藤 浩（放送大学）， 栗山 健（学習研究社），

小泉力一（尚美学園大学）， 柴田好章（名古屋大学）， 清水悦幸（内田洋行），

高橋 純（富山大学）， 竹中真希子（大分大学）， 田中博之（早稲田大学），

椿本弥生（東京大学）， 中川一史（放送大学）， 永田智子（兵庫教育大学），

中原 淳（東京大学）， 南部昌敏（上越教育大学）， 野中陽一（横浜国立大学），

平嶋 宗（広島大学）， 山内祐平（東京大学）， 山田政寛（金沢大学）

担当副会長：山西潤一（富山大学）

### 大会実行委員会

委員長：山内 祐平（東京大学）

委員：中原 淳（東京大学）， 西森年寿（東京大学）， 望月俊男（専修大学），

佐藤朝美（東京大学）， 山田政寛（金沢大学）， 北村 智（東京大学），

椿本弥生（東京大学）， 重田勝介（東京大学）， 林 一雅（東京大学）

## 2009年度 夏の合宿研究会のご案内（最終報）

テーマ：「新学習指導要領における情報教育の役割」

日時：2009年8月22日（土）13:00～23日（日）12:00

場所：和歌山大学 教育学部講義棟 (<http://www.wakayama-u.ac.jp/navi/access.html>)

※ JR和歌山駅および南海電鉄和歌山市駅から路線バスあり。関西空港からJR和歌山駅までは、空港バスにて約35分。（学内駐車場あり・自家用車入構可能）

対象：学校教育に関わる実践者および研究者、学会関係者（定員80名程度）

参加費：研究会参加費1,500円（予定）※当日資料代を含む（なお、「情報交換会」参加費4,000円は別途徴収させていただきます。宿泊場所は和歌山市内にて各自ご手配をお願いいたします。宿案内は申し込みWebページにてリンクしております。）

### 【一日目】8月22日（土） 13:30～17:30（13:00受付） ※研究会終了後に情報交換会

#### テーマ「新学習指導要領における情報教育の役割(1)」

新しい学習指導要領や新・手引きの趣旨に対応した具体的な授業デザインをどうするべきかについて参加者相互に議論・検討したいと考えています。実際に手引きの作成に関わった研究者や、既に新しい視点を取り入れた授業を実践されている学校現場の先生方を招いて、活発な議論ができる研究会にしたいと思えます。

13:30～13:40 開会あいさつ

13:40～14:40 基調講演

「新学習指導要領と情報教育」 永野和男（聖心女子大学）

14:50～17:30 ワークショップ

「“教育の情報化に関する手引”の要点と授業実践への活かし方」

解説・進行 野中陽一（横浜国立大学）、木原俊行（大阪教育大学）

「教育の情報化に関する手引」を授業実践として具体化するための授業設計やその方法について、講演者やファシリテーターを交えて検討します。

（閉会后18:00～20:00情報交換会 ※終了後にさらにナイトセッションを予定。）

### 【二日目】8月23日（日） 9:15～12:00（9:00受付）

#### テーマ「新学習指導要領における情報教育の役割(2) —情報モラル指導に焦点を絞って—」

具体的な情報モラル授業実践事例の発表をもとにして、効果的な情報モラル指導のためのカリキュラム、授業設計・評価方法等について議論を深めたいとおもいます。最後に、これらの社会的・教育的なニーズに対応するための日本教育工学会が果たすべき役割について総括します。

9:15～ 9:30 あいさつ・趣旨説明

9:30～11:20 パネルディスカッション（情報モラル授業実践事例発表＋協議）

コーディネータ 豊田充崇（和歌山大学）

授業実践事例発表 山中昭岳（和歌山大学教育学部附属小学校）

ほか指定討論者を含め発表者3名を予定

11:30～12:00 全体総括 永野和男（聖心女子大学）

■問い合わせ先：夏の合宿担当 豊田充崇（和歌山大学）[toyoda@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:toyoda@center.wakayama-u.ac.jp)

※詳細及び参加申し込みは日本教育工学会Webサイトにてご確認下さい。

## 研究会の開催

研究会  
2009

テーマ 教科教育学と教育工学の交差点／一般

- 日 時：2009年 7月 4日(土)
- 会 場：宮崎大学(教育文化学部 講義棟4階)  
(〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地)
- 担 当：山口悦司( [etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp](mailto:etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp) )

## プログラム

発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)

9:30- 9:35 諸連絡

9:35-11:40 午前の部

## A会場 (L403教室)

- A1) 教師の授業設計や意思決定の特徴を評価する模擬授業ゲーム盤の開発  
松田稔樹(東京工業大学大学院)
- A2) アメリカにおける電子教科書を用いた数学教育についての調査研究  
石田唯之(慶應義塾普通部)
- A3) ヨルダン国におけるICT・実験・生徒中心型学習を中核とした理科教員能力の強化  
太田剛(パデコ), 藤谷元子(東京工業大学大学院), 赤堀侃司(白鷗大学)
- A4) Evaluation of Trainings for Science Education in Jordan  
Motoko Fujitani・Hiromitsu Muta(東京工業大学大学院), Go Ota(パデコ)
- A5) 教育情報コラボレーションとは何かー開発過程における人間心理ー  
柏木肇(電気通信大学大学院)

## B会場 (L405教室)

- B1) CMSによるコメント・感想の投稿に見る受講者の存在感の変容に関する分析  
佐藤弘毅(名古屋大学)
- B2) 大学入学生における教科「情報」の基礎学力調査  
青木謙二(宮崎大学)
- B3) 中学生を対象とした情報通信機器の利用状況等の調査に関する分析考察  
豊福晋平(国際大学)
- B4) 利用実態や生活環境の違いに応じた情報モラル指導についての協働型の教育実践研究  
水野宗市(都城市立高城小学校), 佐野工(清武町立清武小学校),  
新地辰朗(宮崎大学大学院)
- B5) 低学年児童によるPodcastを活用した情報発信  
ー対話から見えるコミュニケーション能力の向上ー  
町田智雄(横浜市立千秀小学校), 豊福晋平(国際大学)

12:40-12:45 委員会挨拶・諸連絡

12:45-14:25 午後の部第一部

## A会場 (L403教室)

- A6) 教師の資質能力としてのディスポジションに関する研究ー米国における動向を中心にー  
小柳和喜雄(奈良教育大学大学院)
- A7) ブログによる理科実験レポート作成の有効性について  
中島進(唐津市立北波多小学校), 豊福晋平(国際大学)
- A8) 学校子どもブログ活動の教育的位置付けと指導について  
辻美早子(一宮市立瀬部小学校), 豊福晋平(国際大学)
- A9) 双方向映像システムを利用した外国人講師による小学校英会話遠隔授業の実践と効果  
清水康敬(東京工業大学), 山本朋弘(熊本県立教育センター), 森本容介(放送大学),  
影戸誠(日本福祉大学), 山内豊(東京国際大学)

---

## 12:45-14:25 午後の部第一部

### B会場 (L405教室)

- B6) 多声的思考の支援におけるマンガ表現の効果 —理論と手法の提案—  
鈴木栄幸 (茨城大学), 久保田善彦 (上越教育大学大学院), 望月俊男 (専修大学)
- B7) 多声的思考の支援におけるマンガ表現の効果 —学習指導案作成過程の事例分析から—  
久保田善彦 (上越教育大学大学院), 望月俊男 (専修大学), 鈴木栄幸 (茨城大学)
- B8) 多声的思考の支援におけるマンガ表現の効果  
—教育実習事前指導における指導案作成への応用—  
望月俊男 (専修大学), 久保田善彦 (上越教育大学大学院), 鈴木栄幸 (茨城大学)
- B9) 定量的・質的研究と教育情報コラボレーションとの交差点  
柏木肇 (電気通信大学大学院)

## 14:40-16:20 午後の部第二部

### A会場 (L403教室)

- A10) 海外先進事例にみる教育の情報化推進体制  
新地辰朗 (宮崎大学大学院), 坂元昂 (東京未来大学)
- A11) 大学—附属学校間遠隔授業システムによる「福教大ライブキャンパス」の構築について  
古川健一・豊田晴一 (福岡教育大学)
- A12) 教科書イラストの配置デザインの好みに関する研究  
周村諭里・遠藤梓・柳沢昌義 (東洋英和女学院大学)
- A13) 授業における講師の話速と学生の理解度に関する研究  
柳沢昌義・國松美菜帆・福間加代子 (東洋英和女学院大学)

---

### B会場 (L405教室)

- B10) 授業観察のための授業映像への手書きアノテーション手法の分析  
江木啓訓 (東京農工大学), 實理翔太郎 (東京農工大学大学院),  
加藤由香里 (東京農工大学), 塚原渉・中川正樹 (東京農工大学大学院)
- B11) 英語ライティング自動採点システムを導入した授業デザインの評価  
松本佳穂子 (東海大学)
- B12) 「構造力学」のブレンディッドラーニングに関する研究  
—つまずくポイントを提示する学習システムの提案—  
久木章江 (文化女子大学), 赤倉貴子 (東京理科大学)
- B13) Power c#3.0  
柏木肇 (電気通信大学大学院)

---

### ●参加費用：参加費は無料です。

研究会報告集の年間予約購読代金 (3,500円) を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として1,000円を当日受付にてお支払い下さい。また、当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。

### ●交通案内：

【宮崎駅から】 宮崎駅前バスセンターより「宮崎大学」行き (宮崎交通)  
宮崎大学下車 (所要40～50分)

【宮崎空港から】 タクシーが便利です (約20分)。

バスは大学直通がなく、電車は大学付近の駅がありませんので、いずれも不便です。

詳しくは、以下などをご参照下さい。

宮崎大学Webページの「交通アクセス」「キャンパスマップ」など <http://www.miyazaki-u.ac.jp/>

宮崎交通 <http://www.miyakoh.co.jp/>

### ●お知らせ：昼食は、大学内の生協をご利用頂けます。会場からは徒歩5分以内です。

<http://kyushu.seikyoku.ne.jp/miya-coop/service/ontime.html>

---

## 研究会の発表募集 テーマ： ICT活用の授業研究と教師教育／一般

●日 時：2009年10月24日(土)

●会 場：信州大学 (担当：谷塚光典)

●申込締切：2009年 8月24日(月)

●原稿提出：2009年9月24日(木)

●募集内容： 教職実践演習の必修化や教職大学院の創設など新たな制度が導入されながら改革が進む教師教育では、教育工学の新しい手法を活用した教員養成・研修が行われています。そこで、今回の研究会では、ICTを活用した教科学習に関する実践研究のほか、eポートフォリオやe-LearningなどICTを活用した教師教育やアクションリサーチのような手法を用いた授業研究に関する発表を募り、教師の専門的力量形成と授業研究についての議論や情報交換を行いたいと考えております。また、上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

●申込方法： 研究会Webページよりお申し込み下さい。

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●原稿執筆： 締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出： 原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚、期限までに提出いただけない場合は、キャンセルとさせていただきます。

## 今後の研究会の開催予定

開催日	募集テーマ (予定を含む)	開催場所
2009年12月19日	FDの組織化・大学の組織改革／一般	京都外国語大学
2010年03月06日	教育実践を指向した学習支援システム／一般	広島大学
2010年05月15日	情報モラル教育・ネットいじめ対策／一般	北教大旭川校

●発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。

●研究会に関するご意見・ご希望、研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会幹事までお寄せ下さい。

E-mail: [study-group-core@jset.gr.jp](mailto:study-group-core@jset.gr.jp)

## 年間予約購読のお勧め



●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは1冊1,000円と割高になります)。年間5冊、合計1,100ページ前後で、各研究会平均37件程度(平成20年度実績)の研究発表が掲載されます。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせ下さい。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル

TEL/FAX : 03-5740-9505 E-mail: [office@jset.gr.jp](mailto:office@jset.gr.jp)

## 研究会の開催報告

●日 時：2009年5月16日

●会 場：徳島大学

●発表件数：31件

●参加者数：55名

「ICTを活用したFD」というテーマで、平成21年度の最初の研究会を開催致しました。高等教育機関におけるFDへの期待が高まる中、ICTを活用したFDに関する研究、例えば、授業参観システム、教員向けのポータル、各種実践の報告等、幅広い研究報告と活発な議論が行われました。当日は31件の発表がおこなわれ、55名余の皆様に参加をいただきました。学生のイベントが研究会と同時に開かれたため、キャンパス内の混雑等が心配されましたが、お手伝い頂いたスタッフのおかげで、プログラムは予定通り進行することができました。参加頂いた方からは研究会に良好な印象を頂き、次回以降の研究会への参加の意欲を高めて頂いたのではないかと思います。最後に、研究会に参加の皆様には厚くお礼申し上げます。 担当：金西計英 (徳島大学)



# 日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

## 「学習・教育支援のための技術開発論文特集」のご案内（第二報）

現在、学習・教育支援システムの開発研究では、多様化する情報通信技術を基盤とした新たな学習・教育支援の模索、およびWebテクノロジー、データマイニングなどの新しいソフトウェア技術を取り入れた質の高い学習・教育支援の実現が試みられています。また、新しい技術開発だけでなく、既存の要素技術を見直し、新しい活用方法を見出すことも盛んに行われています。今後、こうした幅広いアプローチのもと、有用なシステムが数多く生み出されてくることが期待されます。そこで、本論文特集号では、学習・教育支援のための技術開発に焦点を当てた様々な視点からのシステム開発論文を中心に広く募集します。

### 1. 対象分野

- (1)新しい学習・教育支援技術の設計・開発（Webテクノロジー、データマイニングなどの利用）
- (2)学習・教育支援のための既存要素技術の新しい組み合わせや新しい活用
- (3)学習・教育支援システムのためのユーザインタフェース構築（認知的アプローチも含む）
- (4)学習・教育支援システム評価技術
- (5)学習・教育支援システム運用技術（LMS、学習者認証、ポートフォリオ、インフラなど）
- (6)学習・教育の質向上を目的とした要素技術・システムの開発
- (7)その他、学習・教育支援技術開発に関する研究

### 2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程は通常の論文誌の場合と同じです。ただし、査読は2回限りとし、編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させ、「論文」として投稿することも可能ですが、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。

なお、本特集号の対象分野外の論文が投稿された場合は、一般論文として扱うこととなりますので、あらかじめご了承ください。

### 3. 論文投稿締め切り日（2010年11月発行予定）

投稿原稿を2月8日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月15日までは、論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2010年2月 8日(月)

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2010年2月15日(月)

### 4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿して下さい。郵送による投稿は受け付けません。

### 5. 問い合わせ先

電子メール：tokushu2010@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

### 6. 特集号編集委員会

委員長：柏原昭博（電気通信大学）

副委員長：渡辺健次（佐賀大学）

幹事：松浦健二（徳島大学）、

長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）

委員：伊東幸宏（静岡大学）、

植野真臣（電気通信大学）、加藤泰久（NTT）、

国近秀信（九州工業大学）、

小尻智子（名古屋大学）、小西達裕（静岡大学）、

佐々木整（拓殖大学）、

竹内章（九州工業大学）、仲林清（放送大学）、

林敏浩（香川大学）、

林雄介（大阪大学）、東原義訓（信州大学）、

平嶋宗（広島大学）、

松田憲幸（和歌山大学）、松原行宏（広島市立大学）、

宮田仁（滋賀大学）、

宮寺庸造（東京学芸大学）、室田真男（東京工業大学）、

吉川厚（教育測定研究所）、渡辺博芳（帝京大学）

## 第12期第16回理事会議事録

日 時：平成21年05月09日(土)14:40～16:40

場 所：キャンパス・イノベーションセンター 7階 708号室

出 席：赤堀侃司会長，永野和男副会長，野嶋栄一郎副会長，矢野米雄副会長，赤倉貴子，伊藤紘二，植野真臣，小柳和喜雄，木原俊行，黒上晴夫，向後千春，清水康敬，鈴木克明，中山 実，東原義訓，堀田龍也，美馬のゆり，宮田 仁，室田真男，山内祐平

事務局：磯野，服部，真砂

1. 第12期15回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について承認した。

- (1) 新入会員 40名(正会員：20名，学生会員：15名，准会員：5名)
- (2) 退会会員 58名(正会員：33名，学生会員：12名，准会員：11名，維持会員：2団体)
- (3) 種別変更 20名(正会員へ10名，学生会員へ5名，准会員へ5名)
- (4) 除籍者 62名(正会員：47名，准会員：15名)

3. 各種委員会報告について

(1) 編集委員会

清水編集長から資料に基づいて，論文誌(和文誌，英文誌)の発行スケジュールが説明された．査読進捗状況，編集委員の選任について検討したことが報告された．

(2) 研究会委員会

堀田委員長から資料に基づいて，研究会開催状況，次年度計画について報告があった．次期研究会委員会の委員候補者について報告があった．

(3) 企画委員会

美馬委員長から，冬の合宿研究会，産学共同セミナーの報告，夏の合宿研究会の計画，次期企画委員会委員についての検討が報告された．

(4) 大会企画委員会

東原委員長から，大会実行委員の交替の報告があり，これを承認した．

大会課題研究のテーマが確定し発表申込，企業展示の募集を開始する旨，報告があった．また，大会論文原稿の提出形式についてニューズレターで広報したことが説明された．山内大会実行委員長から，ワークショップについて募集していることが説明された．

文部科学省に後援依頼をお願いしていること，次年度の大会開催場所について検討状況が報告された．

(5) 国際交流委員会

野嶋副会長から，8月7～8日に中国の教育工学会と日中教育工学研究会を中国・長春で開催する予定であり，日本から7名を派遣することが報告された．

韓国教育工学会の大会に赤堀会長が出席する予定であったが，インフルエンザの問題で参加を取り止めたことが報告された．

(6) 広報委員会

赤倉委員長から資料に基づいて，JSETニューズレター165号についてページ数の構成を確認した．また，166号台割案が示され，ページ数の構成について検討した．

(7) FD特別委員会

宮田理事と永野副会長から，3月に開催されたFDワークショップが，全国から40名の参加者を得て盛会であったことが報告された．修了者には，学会として認定書を出す予定である．

4. 総会議案書について

資料の総会議案書を確認し，修正事項を修正する条件で承認した．

5. その他

(1) 第6回(平成21年度)日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について

平成20年度の推薦者が2年間有効であることから，今年度は推薦しないことにした．

(2)学会のロゴマークについて

学会創設25周年を記念して、ロゴマークを制定することが提案され、これを承認した。  
2009年度予算にも計上することを承認した。

(3)後援名義使用の承諾について

- ・Business Blog & SNS World 2009(株式会社IDGジャパン)  
資料の依頼事項について検討したところ、名称の使用についてだけ承認することを条件に承諾することにした。
- ・第13回視聴覚教育総合全国大会第60回放送教育研究会全国大会合同大会(全国放送教育研究会連盟)

(4)協賛名義使用の承諾について

- ・e-Learning WORLD 2009 -Expo&Conference-(フジサンケイ ビジネスアイ)
- ・第11回DSPS教育者会議(デジタル信号処理の教育を考える会)

(5)本学会への広報について確認した。

(6)今後の理事会

第12期17回/第13期第1回理事・評議員会(合同) 2009年06月20日(土)東京大学

以上

学会日誌

2009年

- 7月 4日(土) 研究会「教科教育学と教育工学の交差点」(宮崎大学)
- 8月22日(土)～23日(日) 夏の合宿研究会「新学習指導要領における情報教育の役割」(和歌山大学)
- 9月 9日(水) ニュースレター 167号発行
- 9月19日(土)～21日(月) 第25回全国大会(東京大学)
- 10月14日(水) ニュースレター 168号発行
- 10月24日(土) 研究会「ICT活用の授業研究と教師教育」(信州大学)
- 12月 9日(水) ニュースレター 169号発行
- 12月19日(土) 研究会「FDの組織化・大学の組織改革」(京都外国語大学)

2010年

- 3月 6日(土) 研究会「教育実践を指向した学習支援システム」(広島大学)
- 5月15日(土) 研究会「情報モラル教育・ネットいじめ対策」(北教大旭川校)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ…………… 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ…………… 研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ…………… 大会企画委員会 (taikai2009@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ…………… 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ…………… 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長：清水康敬，広報委員長：赤倉貴子，広報副委員長：宮田 仁，  
委員：矢野米雄，伊藤剛和，香山瑞恵，神月紀輔，皆川 武，三輪吉和  
E-mail : kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No. 166

2009年06月24日 発行人 赤堀侃司  
発行所 日本教育工学会事務局  
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル  
TEL/FAX : 03-5740-9505 E-mail : office@jset.gr.jp  
http://www.jset.gr.jp/ 郵便振替 00180-2-539055